寛政九

へ13
2946
116

荊楚は茶戦あり。本邦は茶湯あり。唐の張[illegible]
茶品を論じ。余好く野茶を飲。又好く茶を朝[illegible]
夕茶は摸寫を戯作の草稿。我好く人と茶を[illegible]人
又我と茶を[illegible]閲。甘茶は挽茶は後趣向。古手返しの
茶染でも。人の氣を吸し珍物茶詰茶祖の外題の有な
ど。書ぬは損じやと薦らし。否茶應茶も聽いてやる
種本の茶。こちやう。宇治くさせめ板元だやと。つたちや
べらやくちやせぶるくく。阿部茶こちやと茶另ろく。何
ちら茶久保ちやうちやと茶表帝口柏子出飯の黄表
紙茶蘼色その茶りどや氣りしよ。ホ碗せ〳〵茶
せ〳〵。

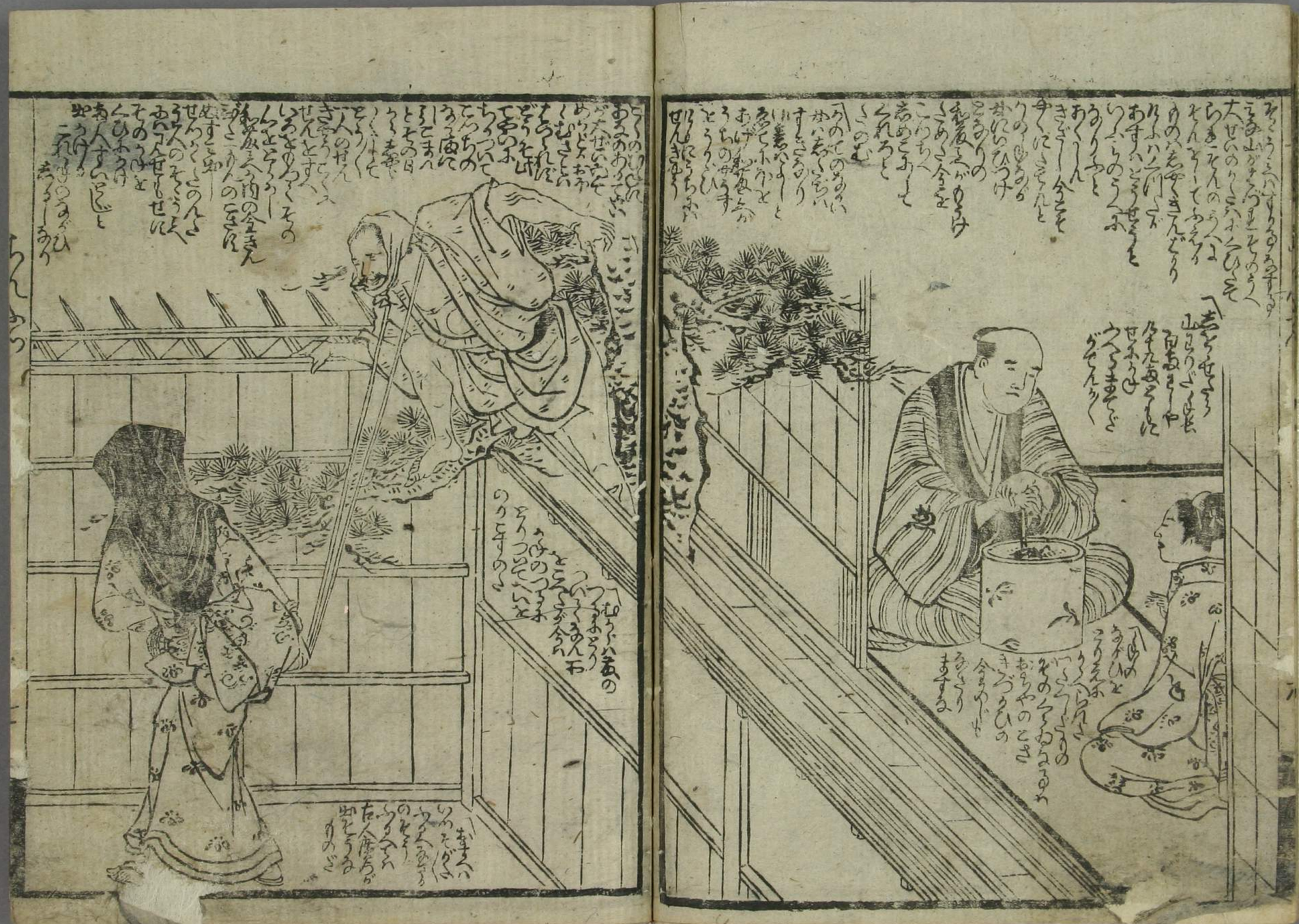
寛政己の孟春

曲亭馬琴記

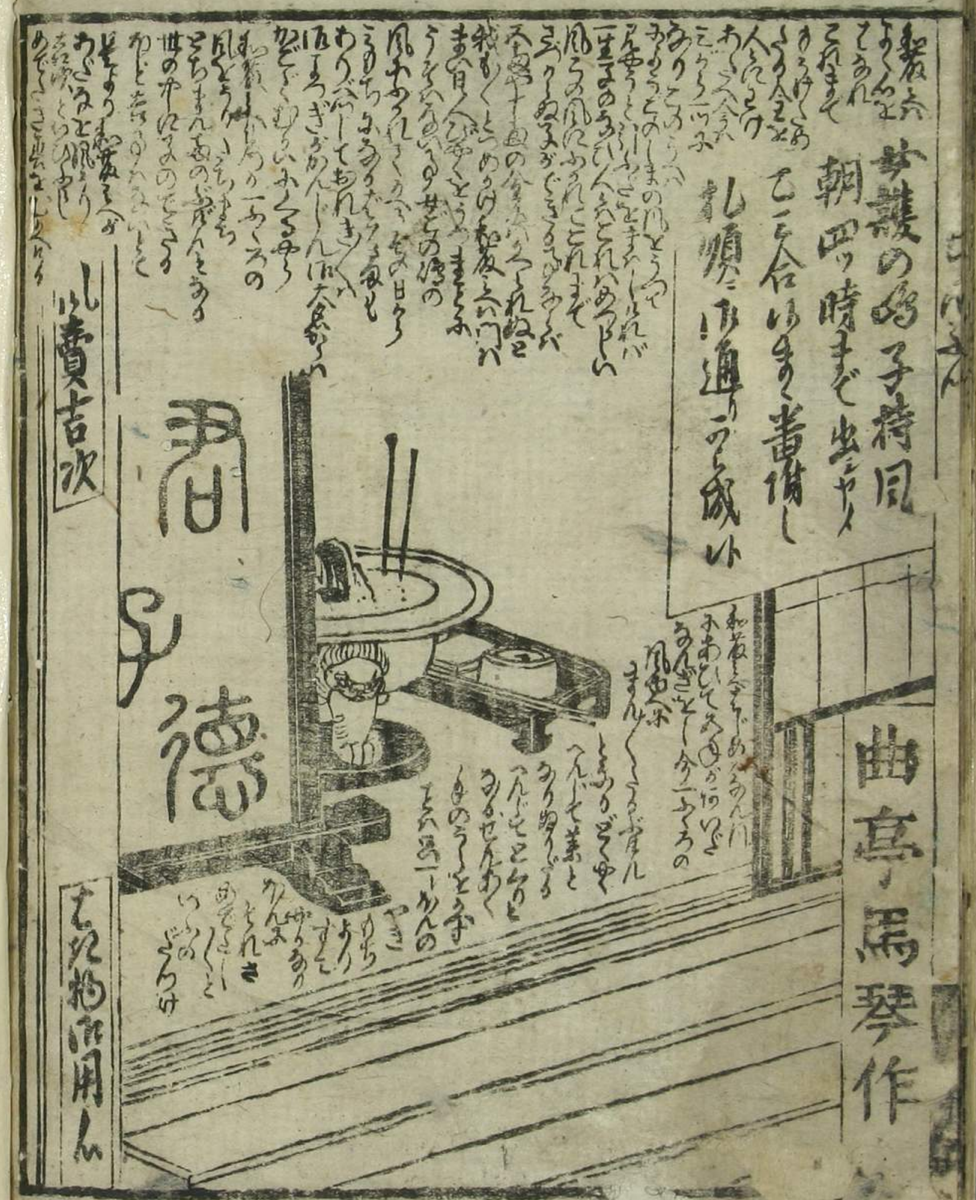
116
特
へ13
2946
116

穿胸國
手長嶌

坂
下り
田
大
まく幕
三里
川脉
土肉



東方
猿太郎明神


曲亭馬琴作
朝四ツ時まで出ヤメ
乙二ヶ合いまく書借し
礼順に取遣り可成以
以貴吉次